鶴高ライブラリー通信 27

神奈川県立鶴嶺高等学校 平成28年1月8日FRI

〒253－0084 神奈川県茅ヶ崎市円蔵1－16－1 No. 53

TEL 0467－52－6601 FAX 0467－54－2124

※ **“つるみん”** 平成26年度第38回鶴嶺祭『ゆるキャラグランプリ』でグランプリを受賞。1年2組小山田夏芽さん、鬼塚麻未さん（旧ｸﾗｽ）の作品で、その思い（願い）は、3つ。**・「世界中を飛んで、鶴嶺の名を広めている鶴」・「好きなものは笑顔と思いやり」・「鶴高生と協力して、世界中を笑顔にするのが夢」**です。

明けましておめでとうございます。今年もたくさん図書館を利用し、たくさん本も読んでくださいね。
先月、図書委員と鶴が台保育園へ“読み聞かせ”に行きました。楽しく園児との交流がでたことで全員が幸せな顔になりました。帰えりの時間は園児がいつも歌っている“お帰りの歌”を披露してくれました。本当に良い時間でした。 司書

◆図書委員・読み聞かせメンバーです。全員が初めて、園児の前での読み聞かせに少し、緊張もし、素敵な時間を過ごせました。

今月のおすすめ本（司書ver.）

『ディズニーに行く前に知っておくと得する66の知識』みつこ【著】文響社【出版社】NDC.689 蔵書あり
本当に行く前に一読しておくと得します。読んでいるだけで、なるほどという気持ちになり、バッチリです。

高校時代に読んだ本 4 5 6 7 9 10 11 12 **1** 2 3

「私が読んだ、面白い本」

鶴嶺高校の図書館に入って、すぐ中央左寄りに書棚がある。その上半分くらいに、ずらりと英語に関する本が並んでいる。ここは私の好きなコーナーでもある。しかし、これから紹介する本は、かつてはこのコーナーにあったかもしれないのだが、今となっては絶版となってしまい、このコーナーでもみる由もない。今回紹介したい本のタイトルは、「英語に強くなる本」で、著者は岩田一男と言って、かつて英語教育の第一人者とも言われた、一橋大学の教授だった人である。この本は昭和二九年の出版で、当時カッパブックスより出版され、新書サイズの本であった。この出版社は、ハウツーものがよく出版され、日本の高度成長期を代表する出版社でもあった。内容は、英語的発想クイズに始まり、われわれが英語を学ぶのにコミュニケーションを重視した方法で習うべきだと本の中で説いた。今から六十年も前に、すでに英語の新しい学び方を唱えていた。今日、英語教育において、コミュニケーションがより声高に叫ばれていることを思うと、いかに先見の明に優れていたかがわかる。やがてそういう時代が来ることを予見していたに相違ない。日本語の発想に基づいて日本語を英語に直してゆくと、英語であって英語でない、変な英語をしゃべることになるから、きちんとした発想を学びましょう、ということを特に力説していた。その中でも特に面白い質問が、読者に対してなされていて、たとえばトイレに入っていて、外からドアをノックされて、「入ってます。」と英語で言いたい。さあ英語で何と言ったらよいか、というのがある。本当は、言葉で返さなくて、ノックを中からすればいいだけだと思いますが、著者の岩田先生は、わかりやすい通じる英語で答えました。皆さんもここでちょっと英語でどうやって言ったらよいか考えてみてください！正解は、Someone in.で、内容が内容ですが、まだ面と向かっていないときは、I'm hereとはいわず、三人称を用いて、Someone in.と言うのだと教わりました。そういえば、ドアの向こうに人の気配がして、「どなた?」と聞く場合も、三人称でWho is it?で聞いてましたね！さらに日常よく聞く日本語を、なかなか英語で言えないところに問題があるのではないかと説いています。日常表現は教室ではなかなか教えられない英語ではありますが、英語の発想法を学ばないで、特に難しい入試の英語にこだわってしまうところに、われわれの持つ共通の課題がそこにあると説いています。実は私は、この本を最近、ネットを通じて手に入れました。ネット通販ではかなり出回っている本のようで、定価は何と一冊五十円でした。送料（九百円）のほうが、高くついてしまいましたが、古い本の中にも今日の様々な問題点を打破したり解決できたりするヒントが書かれているものがよくあります。初版本を読んだわけではありませんが、三十年ぶりぐらいに読んだ、この「英語に強くなる本」により、懐かしさと、永遠の命題が横たわっている事を思い知らされました。

『英語に強くなる本』 岩田 一男【著】筑摩書房【出版社】 英語科 S.I.